



第3回 海部川砂利利用促進協議会

平成29年10月28日

協議会のテーマ

各ゾーンの取り組みと効果の検証

砂利採取管理計画

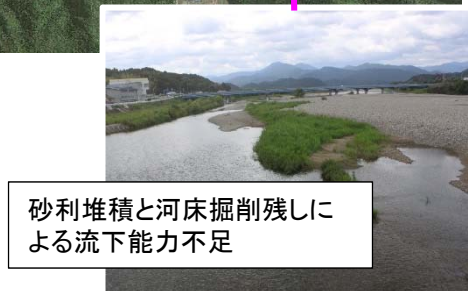
その他

- ①防災教育の取り組み報告
- ②排水ポンプ車の配備

各ゾーンの取り組みと効果の検証

①砂利堆積に伴う課題

二極化とは、砂州部の砂利堆積によって、反対側のみお筋部に流れが集中し、河床低下（局所洗掘）する現象。



②海部川モデルの概要



目的

【治水面】

堆積砂利の除去による治水安全度の向上

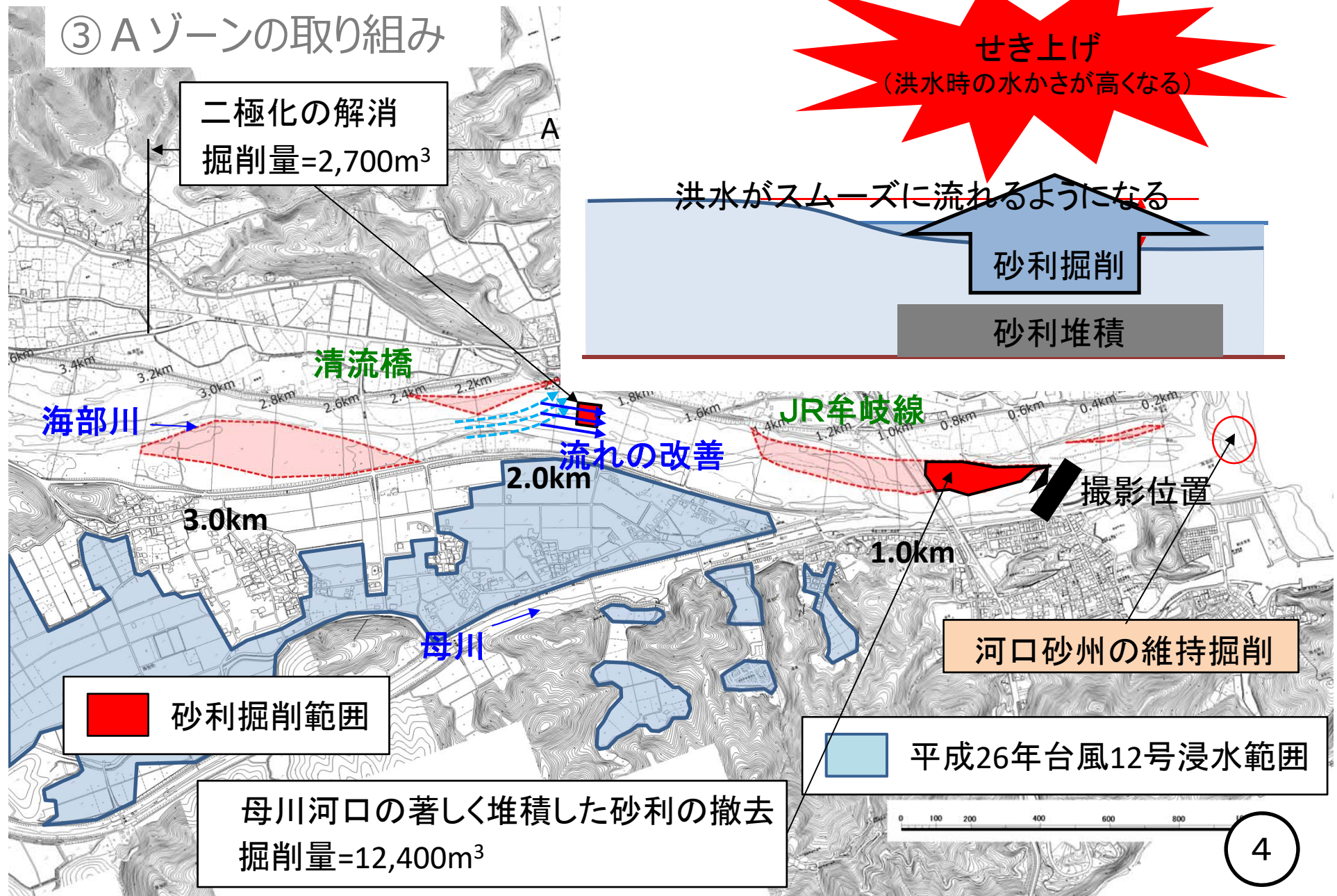
【経済面】

コンクリート骨材として活用することによる製造コストの削減、農地の嵩上げ等による浸水被害軽減や生産性の向上、地域経済の活性化等

【その他】

処分場が不要になることによる環境の保全

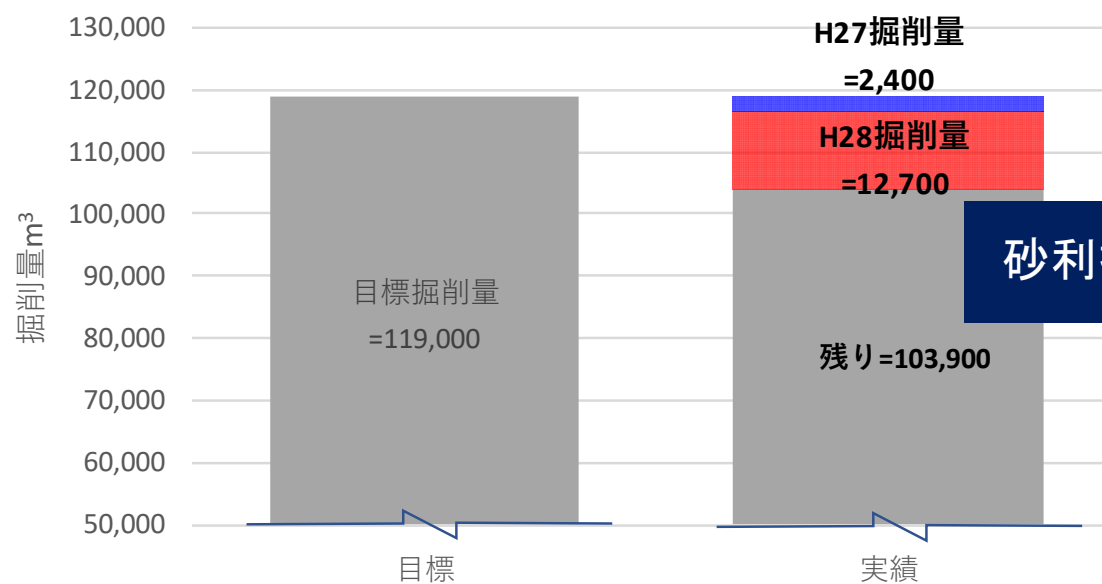
③ Aゾーンの取り組み



③ Aゾーンの効果



Aゾーンの実績掘削量

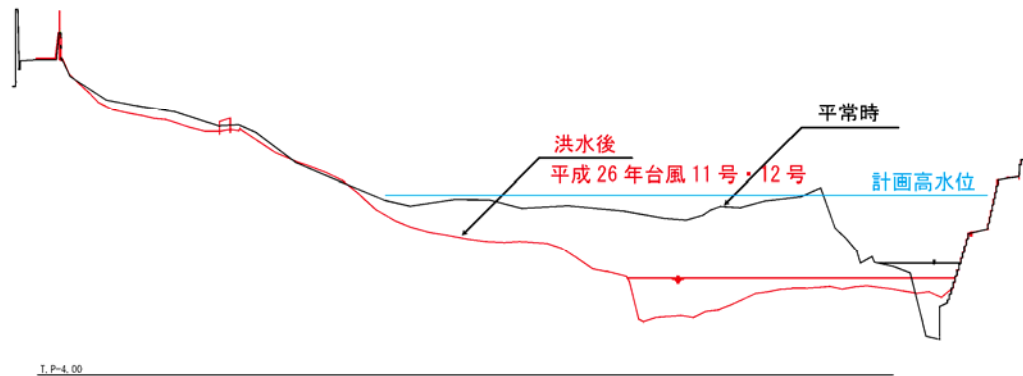


砂利掘削量=約15,100 m^3

③河口部の堆積砂利の除去（参考）



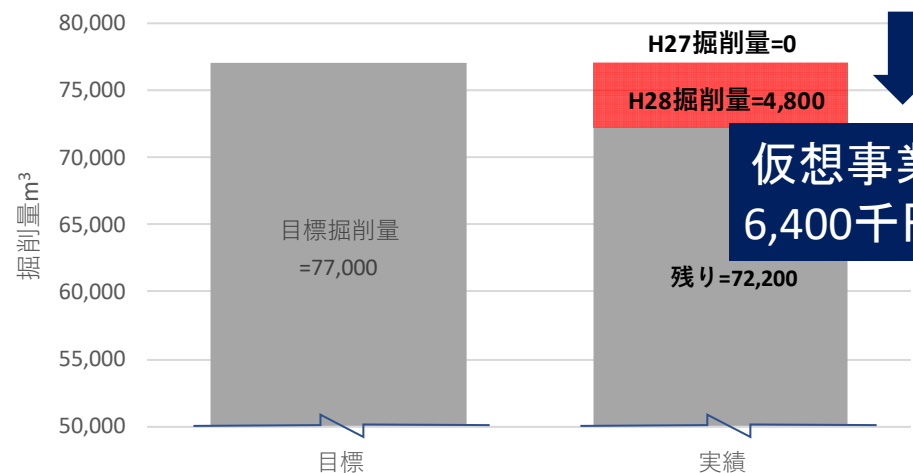
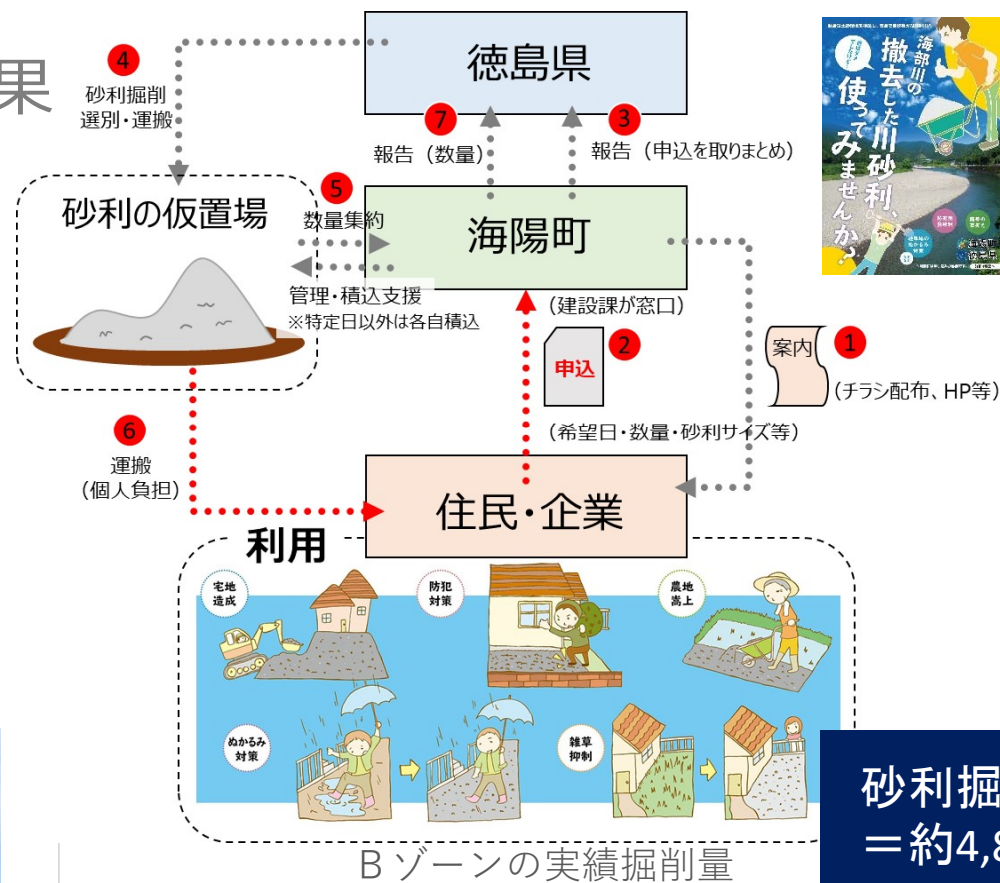
洪水時には河口砂州が流されている



④ Bゾーンの取り組み

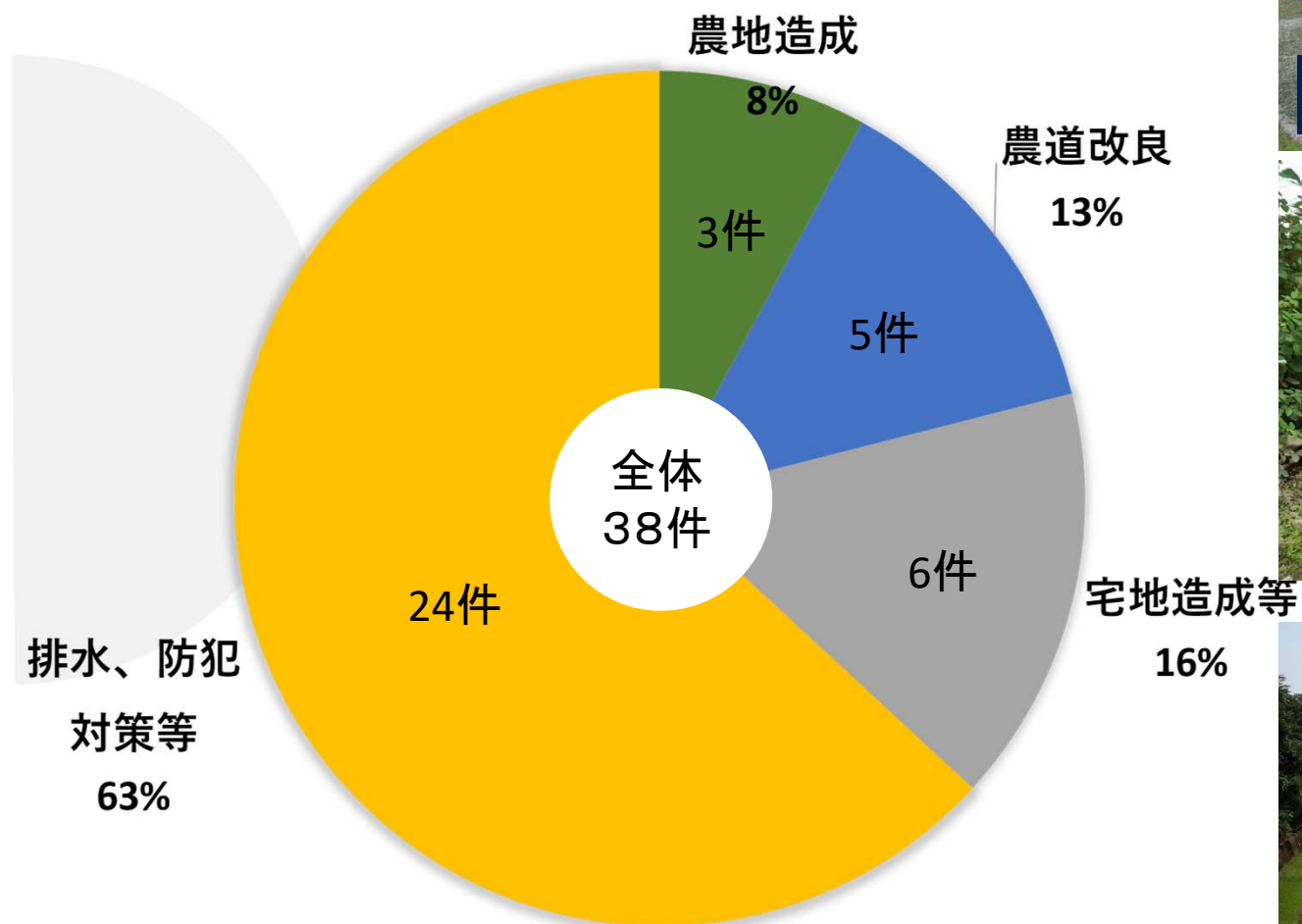


④ Bゾーンの取り組みと効果



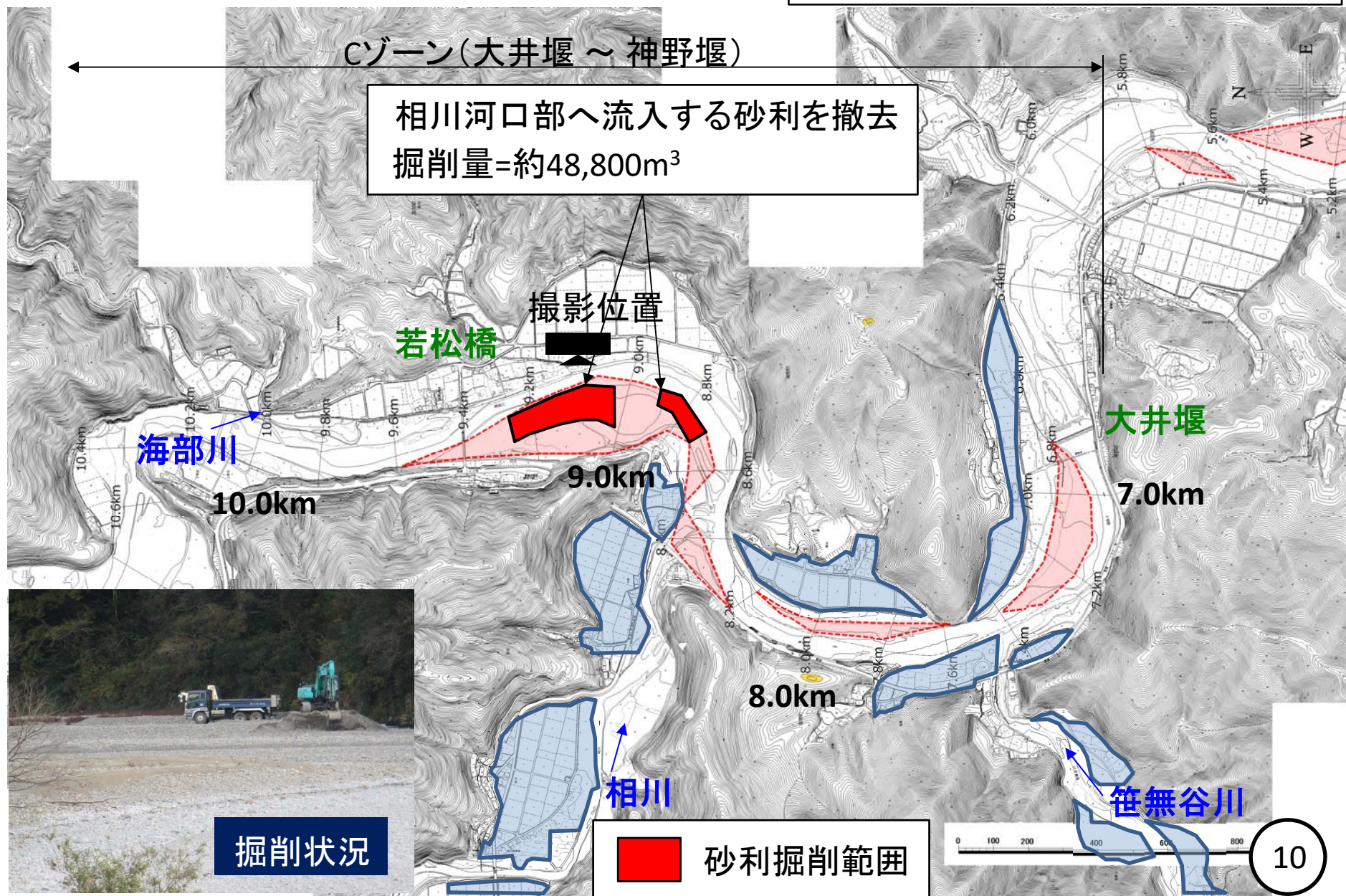
※仮想事業効果とは、本掘削量を公共事業費で掘削・処分した場合の事業費と、本事業費の差額を示す。

④ Bゾーンの効果（砂利の用途）



⑤ Cゾーンの取り組み

平成26年台風12号浸水範囲



⑤ Cゾーンの効果



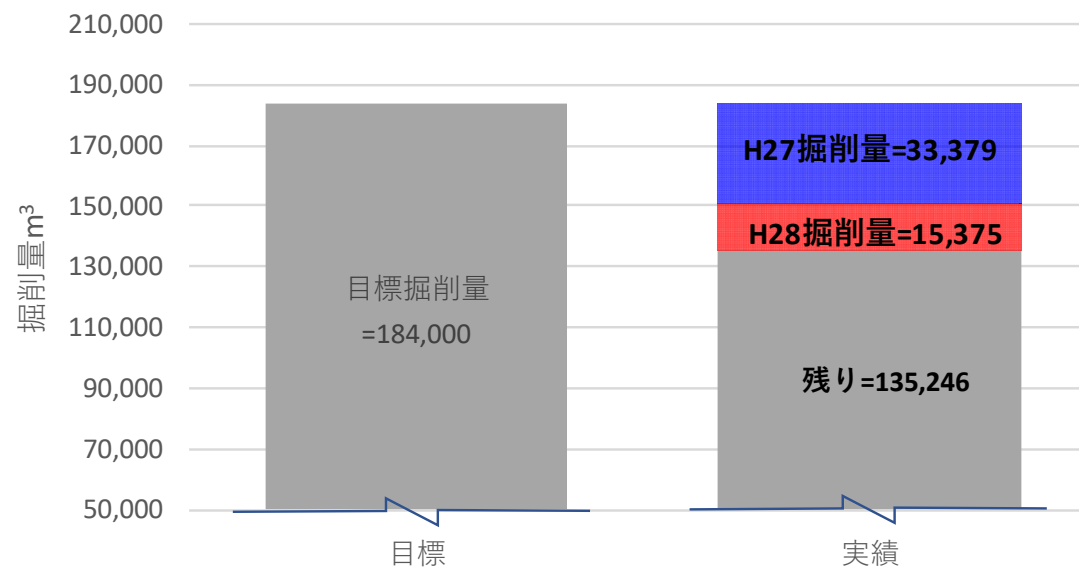
※仮想事業効果とは、本掘削量を公共事業費で掘削・処分した場合の事業費と、本事業費の差額を示す。

採取した砂利約48,800m³は
コンクリート骨材として有効活用



仮想事業効果
145,900千円削減

Cゾーンの実績掘削量



海部川砂利採取管理計画

計画の概要

過去に過度な砂利採取により河床低下を招いたことから、砂利採取可能区域を設定する。
予算や骨材の需要によって短期間での採取完了は難しいため、効率的に治水効果が上がるよう、優先順位をつける。

計画対象区間

本計画は海部川の河口から神野堰までを対象とする。
(河口から12.4km)

計画対象期間

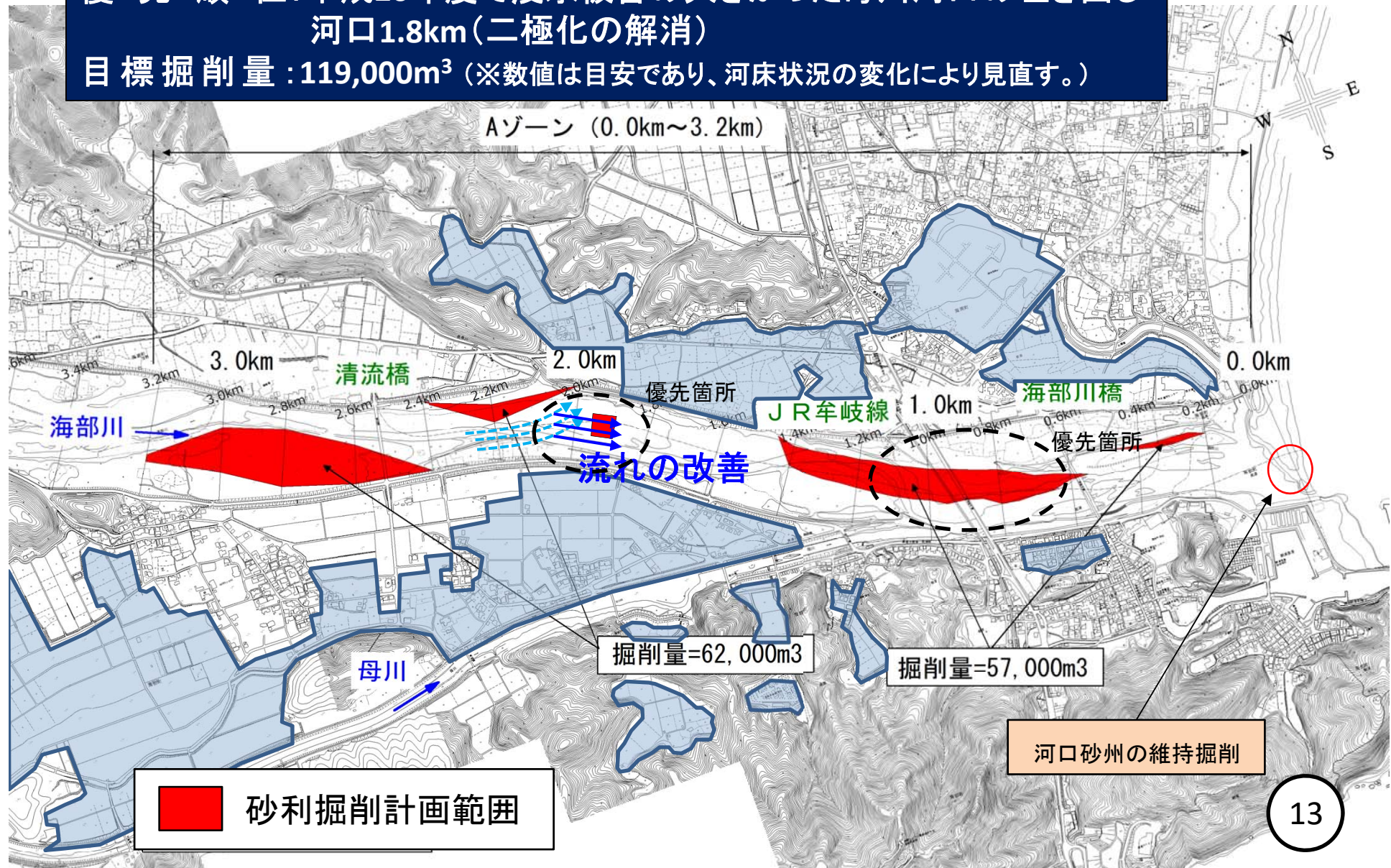
砂利採取と並行してモニタリングを行い、結果に応じて計画を見直す。

① Aゾーン

採取可能区域:整備計画流量(1/50年確率)の流下能力の確保

優先順位:平成26年度で浸水被害の大きかった母川河口の吐き出し
河口1.8km(二極化の解消)

目標掘削量:119,000m³(※数値は目安であり、河床状況の変化により見直す。)

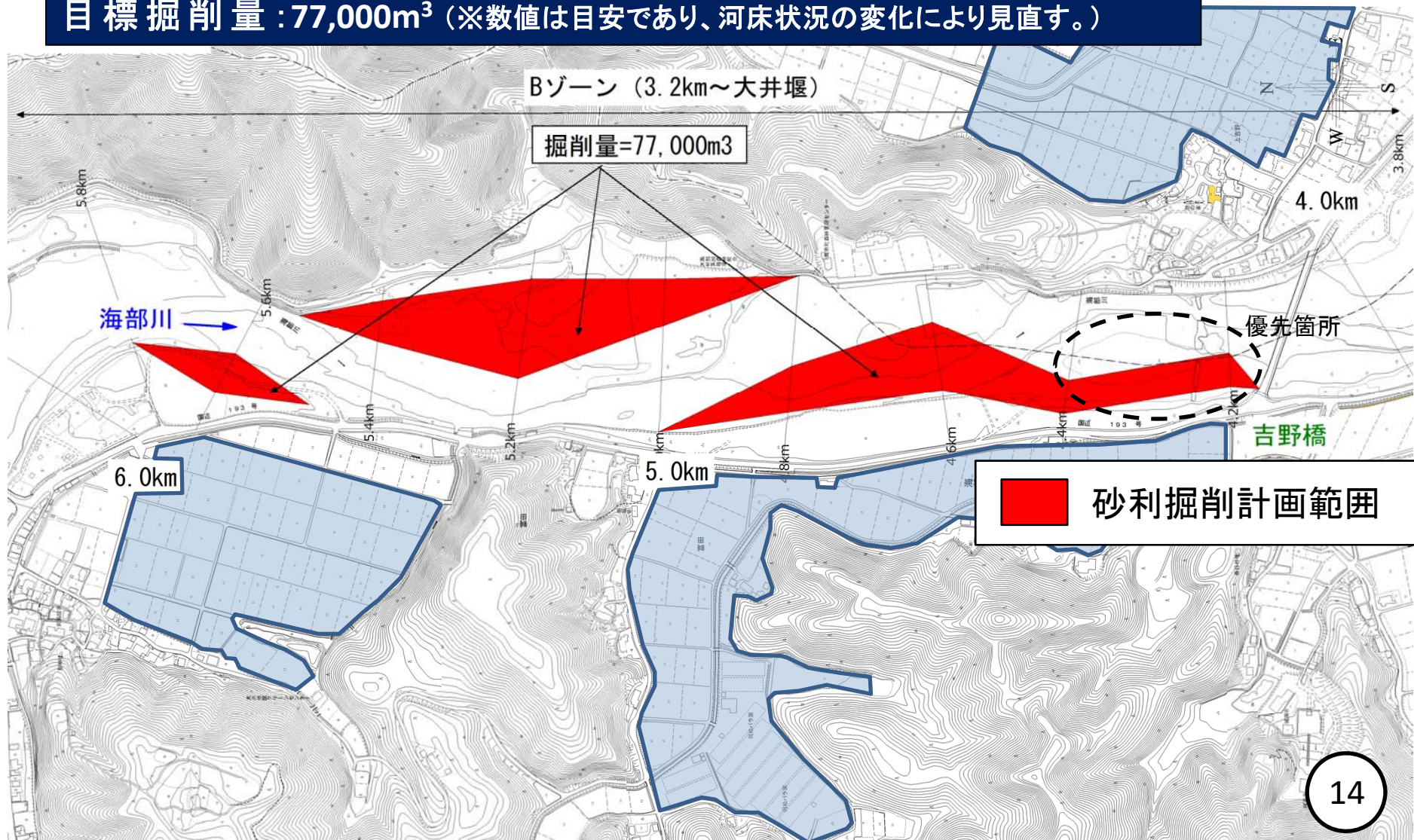


② Bゾーン

採取可能区域: 著しく砂利が堆積した砂州部

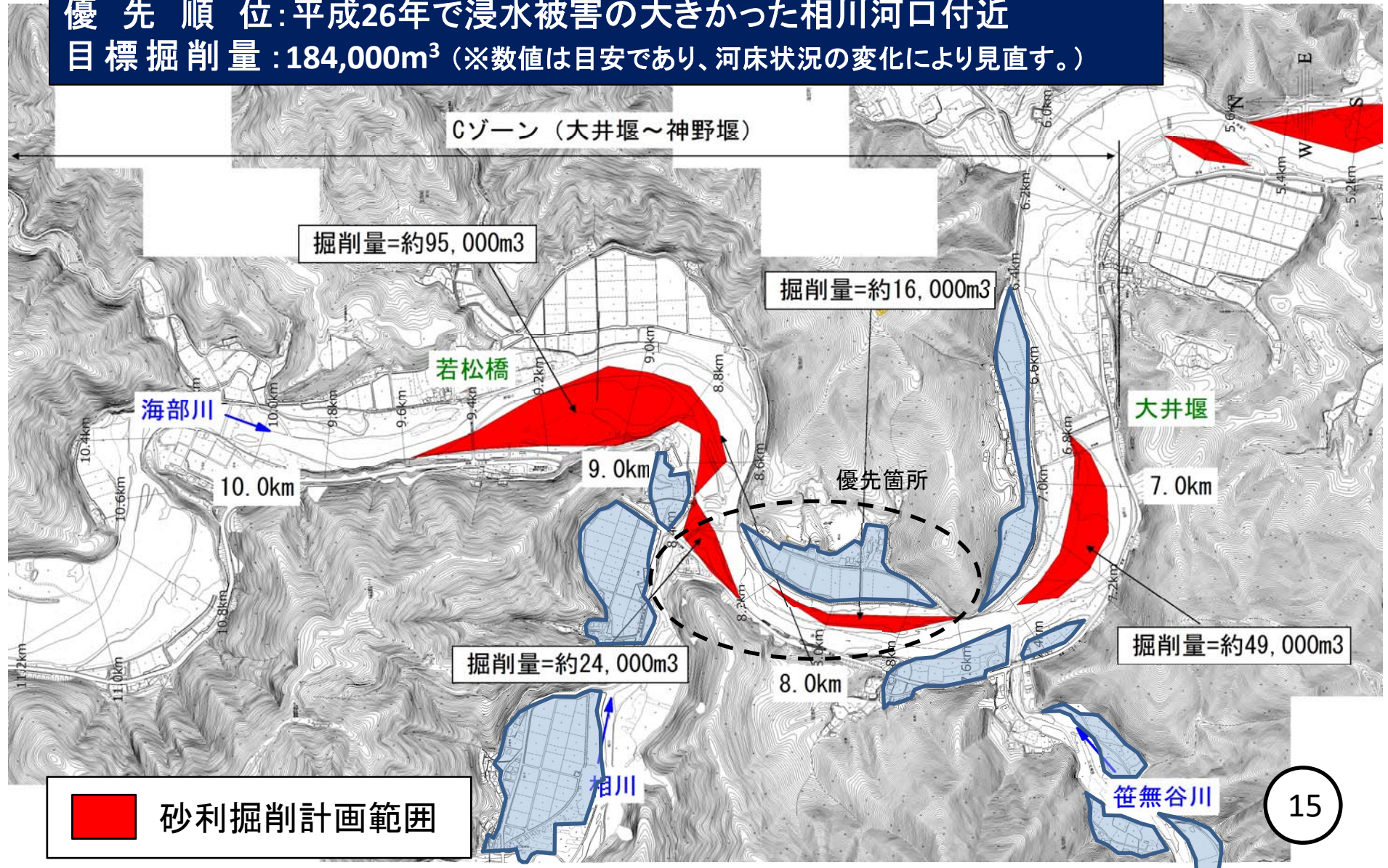
優先順位: 吉野橋上流の堆積箇所(下流から順次実施)

目標掘削量: 77,000m³ (※数値は目安であり、河床状況の変化により見直す。)



③ Cゾーンの取り組み

採取可能区域: 堆積砂利約70万 m^3 のうち、治水効果の高い約18万 m^3
優先順位: 平成26年で浸水被害の大きかった相川河口付近
目標掘削量: 184,000 m^3 (※数値は目安であり、河床状況の変化により見直す。)



④事業進捗を早めるための提案



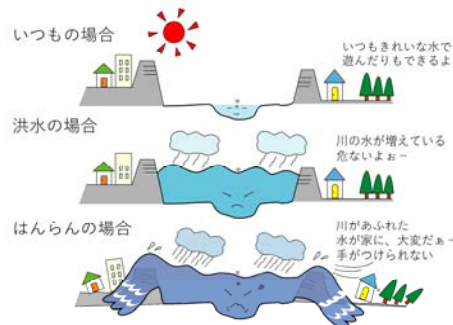
その他

①防災教育の取り組み報告

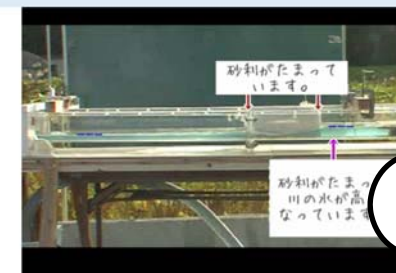
日 時:2017年2月1日

対 象:海部小学校 4年生(9名)、5年生(4名) 計13名

内 容:身近で起こった洪水やそのメカニズム、浸水被害が起こった場合の行動について学習



土砂がたまったり、木が生えとどうなるかな



②排水ポンプ車の配備

降雨の「局地化・頻発化・激甚化」が顕著



海陽町でも、海部川、穴喰川で「内水被害」が広範囲に発生



内水被害: 本川の水位上昇により、支川の樋門を閉鎖したため、支川の洪水が排水できなくなり、発生する浸水被害

内水によってあふれた川の水をポンプで吸い込み、家や道路などが水に浸かるのを防いだり、水に浸かってしまった場合でも早く水を減らすために「排水ポンプ車」を美波庁舎管内に配備



排水能力

1分間に30m³の水を排水

(25mプールの水を13分で空にする能力)

